

平成29年度 学校経営報告

		平成28年度の取組と自己評価			次年度以降の課題と対応策
柱	教育活動の目標取組と自己評価	重点目標への取組と自己評価	数値目標等の達成度合い		
			29年度実績（28年度実績）		
学 習 指 導	補習講習拡大・読書活動の推進・家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着の補習、学力向上の講習等</li> <li>家庭学習の習慣の継続化、定着化</li> <li>読解力を向上させる読書活動の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学・看護学校等進学希望者への講習や進級に努力の必要な者への補習を、放課後、長期休業、土曜等に行う。</li> <li>各種検定試験の資格を奨励し、講習と家庭学習の連携を図り、受検者が、増加した。</li> <li>図書室の活用しやすい工夫、ピブリオバトル、国語授業での「味見読書」、課題作文等に取り組み、図書室の使用頻度を高めた。しかし全体の読書量を引き上げるには至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力が身についた生徒は、全体で71（70）%以上</li> <li>1日30分以上の家庭学習は、全体の29（27）%</li> <li>漢検合格者106（32）名 英検合格者83（97）名</li> <li>月2冊以上読む生徒は、全体の15（23）%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学対策・基礎学力向上など生徒の実態に合わせ目的を明確にした講座を実施する。そのため早期に生徒への周知を行う。</li> <li>各種検定の学年単位の組織的取組みにより受検者数の一層の向上を図る。家庭学習の課題の内容、提出の方法の改善を図るとともに放課後の自習室を確保する。</li> <li>学習のベースとなる読解力を向上させるため、学年や教科会を中心に味見読書、ピブリオバトル等読書活動の推進を行う。月2冊以上読書する生徒を全体の25%以上にする。</li> </ul>
		授業時間確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の内容の充実を図り、かつ授業時間を確保した。</li> <li>行事の質を落とさず、精選していく。</li> <li>全教職員に授業が最も大切であると説き生徒授業規律を守らせた。生徒はほぼチャイム着席ができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に臨む教員の姿勢を生徒が汲み取り、チャイムが鳴ったら着席する習慣を身に付け始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間を増やすことやチャイムが鳴ったら着席する習慣は、継続して取り組む。</li> </ul>
	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科指導における学習到達度を明確にした授業展開を推進する。</li> <li>研究授業で授業力を高め合い、授業公開で保護者・地域の意見を授業改善に役立する。</li> <li>生徒による授業評価を年2回行い、授業改善を図る。</li> <li>思考力・判断力・表現力等言語活動を向上させる授業スタイルの工夫・改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が授業を相互に見せあい、授業改善につなげたり、若手教員等の研究授業を題材とし、研究協議等の内容を授業改善につなげたりした。</li> <li>授業観察における「授業の観点」を明確化し授業改善の資料として提供した。</li> <li>生徒による授業評価を分析し、また、生徒の課題を共有し、進路実現、進級・卒業に向けた指導法を研修した。授業評価については、全ての項目で第一学年の評価が大きく平均値を押し下げた結果となった。</li> <li>思考力・判断力・表現力等言語活動の育成の為にアクティブ・ラーニング型の手法を用いた授業を導入するなどの工夫・改善がみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に若手の研究授業には、教科を超えて様々な改善意見が出されるようになった。</li> <li>授業満足度64（72）% 分かり易い66（72）%</li> <li>教材研究、指導方法の工夫がある 75（80）%。</li> <li>校内研修を実施し、職員全体で共通理解が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業者ごとに課題となるテーマを全員提出させ、授業見学の視点を明確化する工夫をしてゆく。</li> <li>次年度は、授業満足度75%、わかり安さ75%を目指す。</li> <li>教材研究、指導方法の工夫85%を目指す。</li> <li>アクティブ・ラーニング型の授業スタイルの工夫・改善を研修し、進路指導とも連携した言語活動の向上を目指す。</li> </ul>
		総合学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に社会に貢献する意義を、道徳や奉仕体験、キャリア教育体験をとおして理解させる。</li> <li>防災については、地域との役割を明確化し、生徒の自主的な防災活動を活用しながら、リーダーシップを発揮させ、防災の実践的な体験の工夫を図った。一学年の評価が大きく平均値を押し下げる結果となった。</li> <li>アクティブラーニングの手法で自己理解、他者理解、学ぶことの意義等について考えさせ発表する機会を作った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「達成感や思いやり、存在意義を感じた」生徒は全体の63（77）%</li> <li>新教科「人間と社会」の実践は学校生活につながっている」84（76）%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災での実践的な体験をする。社会貢献を通して「思いやりや達成感」を80%以上にする。</li> <li>新教科「人間と社会」の実践は学校生活につながっている」90%</li> </ul>

生活指導	基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則正しい生活習慣、規範意識育成の為に、各種の集会、HR、行事などで、集団生活のルールやマナー等を、教職員全員で積極的に指導を行う。</li> <li>ホームルーム活動、学年集会、全校集会、学校行事などとおし、集団生活におけるルールやマナーを積極的に指導した。指導に当たっては、全教員で取組んだ。</li> <li>自転車通学の危険場所に生徒部教員が立ち、事故防止など改善に努めた。</li> <li>小中合同のあいさつ運動に積極的に取組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規律の理解91（88）% 自転車マナー良好93（67）%</li> <li>時と場所に合わせた身だしなみ指導90% 年3回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規律の理解 95% 自転車マナー良好95% 遅刻者指導を徹底する。平成30年度は年間延べ遅刻者数3500人以下を達成する</li> <li>時と場所に合わせた身だしなみ指導を推進する</li> <li>引き続き小中合同のあいさつ運動に取り組む。年3回</li> </ul>	
	清掃・美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント前の大掃除はもとより、美化委員会を中心として美化週間等に取り組む。地域貢献活動に積極的に取り組む。</li> <li>教室、トイレ、廊下、部室、校庭、学校外周等の清掃・美化につとめた。</li> <li>地域貢献プロジェクトとして、部活動を中心とした自主的ボランティア活動による地域貢献活動を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員による清掃活動（年3回）や学校説明会などの準備に清掃活動を実施した。</li> <li>生徒会と部活のボランティアの有志で校門前公道の清掃活動や除雪を実施した。</li> <li>「清掃活動・美化活動に協力している」生徒が全体の52（48）%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会を中心に主体的に美化週間、美化活動に取り組む。中学校とも連携を図り地域貢献活動等を積極的に取組む。生徒の自己肯定感を高めるとともに「清掃活動・美化活動に協力している」生徒が全体の70%以上になることを目指す。</li> </ul>	
	規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>暴力・いじめ・窃盗等の問題行動には迅速・厳格に対応し、安心・安全な学校生活が送れるように環境を整える。</li> <li>ロッカー施設徹底、教員巡回等により、盗難・窃盗防止について成果を上げた。</li> <li>また、暴力・いじめに、毅然と対応し、一定の成果を上げた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「規律の大切さ、挨拶、頭髪、携帯について指導は十分」という生徒は全体の84（88）%。</li> <li>学校は「いじめ」防止に取り組んでいる」74（72）%</li> <li>情報モラルを意識している生徒88（82）%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の統一基準等を整備し、本校の生徒指導の見直しを行う。</li> <li>いじめ案件0件を目指す。情報モラルを意識している生徒90%以上を目指す。</li> </ul>	
特別活動・部活動	学校行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年や徒会を支援し、望ましい特別活動（対面式・新入生歓迎会・体育祭・文化祭等）を行う。</li> <li>日本の伝統文化を理解し日本の良さを発信できる生徒を育成する。</li> <li>オリンピック・パラリンピック推進教育におけるアスリートとの交流を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事をとおしてルールやマナー、帰属意識を育てた。</li> <li>土曜日開催の体育祭は、保護者・地域の方等1500名以上が来場された。</li> <li>伝統文化に関連した生徒向け講演会の実施。芸術鑑賞教室、芸能体験活動を実施し、伝統文化への理解を深めた。</li> <li>世界の国と地域の文化の特徴等の調査研究を実施。</li> <li>外国人留学生を先生として異文化理解の授業の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭に積極的に参加84（84）%</li> <li>文化祭に積極的に参加84（86）% （保護者）「体育祭は有意義だった」90（90）% （保護者）「文化祭は有意義だった」90（87）%</li> <li>オリンピック・パラリンピック教育でスポーツ志向や国際理解が身に付いた75（-）%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭・文化祭ともに積極的に参加90%を目指す。特に体育祭においては、運動が苦手な生徒でも積極的に参加できる企画を取り入れ、全生徒が一丸となって取り組める行事にしている。</li> </ul>
	部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動を通して、ルールやマナーを学び、自律的な活動が出来るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒部を中心として、外部指導員の状況把握把握し体罰指導が起らないように努めた。</li> <li>1年生は全員部活加入とし、担任・顧問が加入を促進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校加入率 75（76）% 体罰事故0件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年加入率100% 全校加入率 80%（最終） ※1年は全員加入を目指す 体罰事故 0 地域、中学校等との交流試合等の工夫を目指す。</li> </ul>
健康づくり	健康の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任、生徒部、養護教諭等が中心となり、生徒の心身の健康の保持増進に取り組んだ。</li> <li>保健室、担任、生徒部等が連携して、生徒の健康の保持増進に取組んだ。熱中症予防講習会について保健委員を中心に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症予防講習会開催 熱中症予防講習会 事故発生時対応の理解を深めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症予防講習会、事故発生時対応訓練、学校保健委員会を継続して実施</li> </ul>	
	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校保健支援事業を活用し、スクールカウンセラーと保健室との連携を強化し、心に悩みのある生徒の相談活動を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害の対応方法等の研修を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセラーによる生徒の相談体制の構築</li> <li>特別支援教育の校内研修の実施</li> </ul>	
	体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力づくりの一環として、体育祭、マラソン大会、部活動等を充実させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの実施の方法を工夫・改善し全国平均値への向上に努める。</li> <li>5月に体力テスト、オリンピック重点校として体幹トレーニングを3回実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストへの取組の改善の継続。オリンピック教育として体幹トレーニングの実施を継続。</li> </ul>	

進路指導	面談	面接指導を充実させ、進路意識を喚起させることにより進路希望を実現させる。	・生徒の進路意識を喚起するために、学年団が計画的な面談・保護者会等を行った。	1年二者面談2回 三者面談1回 2年二者面談2回 三者面談1回 3年二者面談2回 三者面談1回	1年二者面談2回 2年二者面談2回 三者面談1回 3年二者面談2回 三者面談1回
	進学指導	3年間を見とおした進学指導を、効果的に実施した。	・進路ガイダンス、個別指導、小論文指導、保護者への情報提供を継続し、生徒の進路実現につとめた。推薦、公募希望者が増加（72名）し、全教員で面接指導に取り組んだ。	進路希望達成率95% 進路だよりを年間回数を上回って発行（12回） 「進路情報、アドバイスを十分提供している」84（82）% 「進路指導は1年から計画的に行われている」80（79）% 「授業、ガイダンス、補習、講習は進路実現に役立っている」66（78）%	進路希望達成率95% 3年間の系統的進路ガイダンスの取組みを自主作成した「進路ガイダンス」に基づいて計画的に実施してゆく。 職業理解の体験授業、職業人授業・ワーク、文理・選択科目について、しごとセミナー、現役大学生による進路説明会、小論文指導、面接指導、進路紹介セミナー、オープンキャンパスへの参加奨励等を各学年との連携を密接に図り整備して実施してゆく。 高大連携（桜美林大学等）を活用した入試への取組みの改善を進める
	公務員・企業就職指導	勤労観・職業観を育成し、社会の一員としての役割を自覚させた。	希望にあう進路先を紹介し、面接指導を実施。進路先を訪問させ、受験対策を行う。 新1年生のキャリア教育については全員参加のインターンシップを実施するとともに、進路ガイダンスを実施し、勤労観・職業観の醸成に力を入れた。	大学101名、 短大13名、専門学校60名、看護4名、公務員1名、 就職20名合格。	
	学力向上と 学力向上推進プランに基づき、授業改善を行った。外部実力テストを面談に生かす工夫をした。	学力向上推進委員会を設置し、国・数・英・社・理で定期考査、課題テストを用いて学力調査を実施（2回）。本校入試の学力検査成績を分析し、授業改善等に役立てた。 分析システムについては、校内研修会を開催し、職員全体の共通理解を図った。「学カスタンダード」委員会を開催し各教科での内容の検討を行う。	学力調査問題を1,2年5教科・3年2教科で年2回、1,2年で外部の課題テスト2回（9月、1月）実力テスト等3回（4, 9, 1月）	学力調査問題を1・2年5教科、3年2教科で年2回実施する。 スタディサポート（1年1回）実力テストを1,2年2回、校内模試2年1回（有志）実施 学カスタンダードを作成し、本校の指標を明確化し学習活動の改善に努める。	
	学校PR	ホームページ、学校案内、山高通信、学校説明会等の内容を充実した。中学校訪問は、町田市立中学校を重点的に行った。	・目的意識をもって進学を希望する生徒の確保を目指し、本校への地域や近隣中学校の要求を把握し、学校案内の大幅リニューアルを行うなど広報活動の一層の工夫改善を進めた。 ・学校説明会を年6回行い、学校の取組についての説明を充実させた。山高体験を2日間行い、体験授業を行った。夏季学校見学会を5日実施した。 ・出前授業、体験授業、中学校での説明会講師派遣等を積極的に行った。 ・校門前の掲示板を活用し、地域への情報発信を積極的に行った。 ・学校説明会には、企画室も参加してもらい、授業料等の説明を実施した。	中学生来訪者数延773名（本校にて実施分の生徒数のみ） 中学校訪問は市内中学校各9回 HPの更新700（200）回以上 募集対策事業17回（中学生に対する広報活動） 町田地区の学習塾への説明会を実施	中学生来訪者数 生徒の実数1000名 中学校訪問 市内中学校各4回 HPの更新の継続、掲載記事の工夫（授業等学校生活全般の広報）校門前の掲示の活用の工夫の継続 夏季学校見学会も引き続き5日実施 特色ある学校の取組（キャリア教育等）のPRの強化
学校経営・組織体制・経営企画室の経営	施設開放	施設開放の利用調整を行い、また公開講座を実施した。	テニス中級公開講座で、部員・OBも講師を務めた。 初心者のためのアーチェリー公開講座（小・中学生対象）を開催した。	テニスコート開放日、テニス公開講座実施(9,10月)アーチェリー公開講座4日間（10月）	テニスコート開放30日 テニス公開講座 9, 10月 アーチェリー公開講座 10月（小・中学生）の継続
	地域との かかわり	生徒会や部活が、地域行事に参加した。オリンピック・パラリンピック教育におけるアスリートとの交流	どんと焼き参加、防災訓練での相互協力、茶道部の地域交流、女子バレー・バドミントン部の小学校の運動会の支援、小学校への学習支援。アスリートやスポーツ指導者を招いて直接的な交流を図る。	「推進事業—オリパラ、文化・情報への積極的取り組み」80%	「推進事業—オリパラ、文化・情報への積極的取り組み」85%
	学校経営	企画調整会議、分掌、委員会により、組織的な学校運営を行った。	企画調整会議で、学校の課題を検討し、分掌間の連絡調整に当たった。主幹教諭会議で、総合的な学習等学校改善のための検討を行った。	企画調整会議 毎火曜日 主幹教諭会議 毎金曜日	経営指標に基づいて、分掌等を組織的な取組に改善。 企画調整会議（毎火） 主幹教諭会議（毎金）

学校経営・組織体制・経営企画室の経営	OJT	主幹教諭、主任教諭を中心として、組織的、継続的な人材育成を行った。	職層に応じた役割を明示し、自己点検による自己の課題の明確化を図った。 職層に応じて助言・支援する担当者を決め、組織的、継続的な人材育成を行った。	職層に応じた自己点検、指導・助言の担当者を決定。教員向けの研修5（3）回以上・若手教員研究事業参加者各6（6）名以上	若手教員研究授業 参観者 各回5名以上 職層に応じた自己点検、指導・助言の担当者を早期に決定し、計画的な人材育成に取り組ませる。
	学校評価アンケート	学校評価アンケートの結果を、学校経営に生かした。	学校運営連絡協議会では、規範意識育成、部活動、地域活動が評価され、自転車の課題と共に、近隣スーパーでのマナーの改善が指摘された。保護者のアンケートの回収数が前年に比して増加した。	アンケート 回収率 保護者71.6（72）% 地域25.7（21.3）% 市立中学校50（60）% 12名	アンケート 回収率 保護者75% 地域30% 市立中学校60%
	新教育課程等	教科・特別活動のバランスに配慮しながら、大学進学等の進路を実現する為の新教育課程に取り組む。	3年の英語の授業においても習熟度別授業を行い基礎学力の定着化を図った。 「人間と社会」における1年全員のインターンシップ体験。外部機関を活用した系統的キャリア教育の充実を図る。	基礎学力が身につけている71.3（70）% 保護者61（66）%	基礎学力が身につけている75% 保護者70% 2年の数学でも習熟度別授業を実施。 インターンシップの成果発表会等進路の組織的、計画的実施
	読書活動	未読率を低減し、読書習慣が身につくよう指導を行った。	教員系図書委員会と司書教諭が連携して、パソコンによる貸出管理、選書、読書週間、推薦図書、図書室だよりの発行等に取組み本の貸し出し数が増加した。書評合戦に参加すると共に、校内において書評合戦の自発的取り組みが行われた。	司書(業務委託)との連携を行った。(書評合戦、テイバート、オリンピック等) 図書貸出数4733（4680）冊	授業内、授業外での図書館利用の一層の促進 書評合戦、テイバート、オリンピック推進教育等に対応した図書館の有効活用の工夫 図書貸出数4800冊
	予算編成	限られた予算を、必要な部署に重点的に配付した。	次年度の予算編成に当たり、品目査定を行った。結果として、必要な部署に必要な予算を配付できた。	一般需用費センター利用率57（58）% 予算執行率100（99）%以上	一般需用費学校経営支援センター利用率60%以上 予算執行率99%以上
	授業料等	学校徴収金について、適切な執行管理を行う。	学校徴収金については、経営企画室と教員とが連携し、予算書に基づき執行し、また未納者への対応も行った。	学校徴収金の未納率0%、 授業料納入対象者の未納率0%	授業料及び就学支援金の支給に関わる適正・迅速化を継続して図る。